

市民と議会

つ な が る

総務常任委員会

株式会社
プラネットワーク

株式会社プラネットワーク に聞きました



前列左から、遠藤委員、上杉委員、いぢち委員、小林委員、
佐々木取締役
後列左から、いじま委員、岩永委員、三階委員、
紙上代表取締役、小熊主任

今、災害時の無人航空機（ドローン）活用が注目を集めています。元日に発生した能登半島地震では、空撮による被害状況把握だけでなく、道路寸断で孤立した集落への救援物資輸送など、ドローンが幅広く活用されました。

そこで今回は、自然災害等発生時のドローンを活用した支援活動等について多摩市と協定を締結している、株式会社プラネットワークの皆様にお話を伺いました。

総務常任委員会（以下、総務）：まず、御社の自己紹介、また多摩市との契約のきっかけなどお話しください。

株式会社プラネットワーク（以下、プラネット）：弊社では、元々通信関係の事業で工事やメンテナンスを担っていますが、3年ほど前からドローン事業として、国家資格講習スクールや空撮案件や企業からのご依頼による地形調査を行っています。

1年程前から多摩市防災安全課と関わらせていただき、多摩市役所との災害等における無人航空機を活用した支援活動等に関する協定を結ばせていただきました。

現在、防災安全課とともに災害時におけるドローンの運用体制の構築を進めており、多摩市役所の屋上を第1拠点として位置づけ、災害時など有事に安全に飛行ができるために伝送状況の調査などをおこなっています。

多摩市の3Dマッピングをつくり自動飛行を

総務：ドローンを使って、多摩市としてどんなことをおこなっていったらいいか、何かアイデアはありますか。

プラネット：有事の際でも安全に飛行させるためにも、事前に自動航行ルートを設定しておくことが重要になると考えております。安全な自動航行ルートを設定するためにも多摩市内の各拠点の地形をマッピングしてデータ化することを提案させていただいております。そうすることで、多摩市のような人口密集地での安全な自動飛行などの条件をつくりだせます。



安全な飛行には パイロットの技量アップが欠かせない

総務：ドローンを飛ばすうえで、もっとも大事なことはなんですか。

プラネット：やはり安心安全な飛行です。十分な訓練を受け、ドローンの操縦技術を習得することが安全飛行の基本です。他にも法規制の遵守、周囲の安全、バッテリー管理、気象条件の確認です。これらの基本的な規則の理解と実践がもっとも大切です。

総務：バッテリー切れなどへの対応はどうなっていますか。

プラネット：事前のバッテリー残量チェック、低バッテリーアラートの設定、管理アプリの活用、自動帰還機能、安全な着陸場所の確保、緊急時の手動操縦、これらの対策を講じることで、ドローンのバッテリー切れによる事故やトラブルを最小限に抑えることができます。

ゲーム好きと女性はぜひパイロットに！

総務：どんな人がパイロットに向いていますか。

プラネット：空間認識能力が求められるため、ゲームの得意な方はパイロットに向いてますね（笑）。

それから、体力のいる仕事ではないので、ぜひ女性のパイロットを養成したいです。

中学生向けの手作りドローン教室

総務：パイロットを増やすうえで、どんなことに取組んでいますか。

プラネット：まずは、ドローンに触れていただく取組みをしています。その一つに、中学生用の教材としてハンダを使ったドローン組立からプログラミング飛行までができる教材を展開中です。これは99グラム以下で、ドローンの免許がいらないので、気軽に親しんでもらえます。

総務：ドローンの必要性、可能性がよくわかりました。今日はお忙しいところ、ありがとうございました。

プラネット：こちらこそ、普及の機会をいただき、ありがとうございました。